YAMAHA

J

フロントサラウンドシステム

YAS-152

取扱説明書

Bluetooth®

ご使用前に本書の「安全上のご注意」（19～21ページ）を必ずお読みください。

ヤマハ製品をお買い上げいただきまして、まことにありがとうございます。

■製品を正しく安全にお使いいただくために、ご使用前に本書をよくお読みください。
お読みになったあとは、保証書と共にいつでも見られるところに大切に保管してください。

■保証書に「購入日、販売店名」が正しく記入されていることを必ずご確認ください。

本書は下記のウェブサイトから PDF 版をダウンロードできます。
http://www.yamaha.co.jp/manual/japan/

保証書別添付

目次

内容物を確認する 2
本製品でできること 2
サウンドバーの各部名称 3
設置する 4
接続する 5
操作する 6
Bluetooth 機器の音楽を聴く 8
外部機器の音声を聴く 10
ゲーム機器などのアナログ接続 10
ポータブル機器のアナログ接続 10
設定する 11
テレビのリモコンでサウンドバーを操作する（テレビリモコン学習機能） 11
サウンドバー経由でテレビを操作する（テレビリモコンリピーター機能） 12
外部サブウーファーを使用する 13
設定を初期化する 13
困ったときは 14
主な仕様 17
安全上のご注意 19

本書の記載について

- 本書はリモコンによる操作を主として説明しています。
- 本書で使用されている記号

ポイント

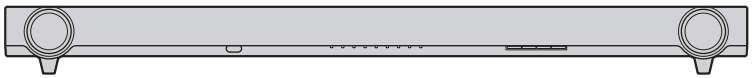
使用時の注意点や機能の制約が記載されています。

ヒント

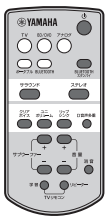
知っておくと便利な補足情報が記載されています。

内容物を確認する

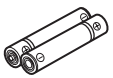
すべて揃っていることをお確かめください。



□ サウンドバー（YAS-152）



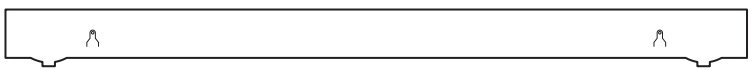
□ リモコン



□ 単 4 乾電池（2 本）



□ 光ファイバーケーブル（1.5m）



□ 取付用テンプレート

※ サウンドバーを壁に設置する際に使用します。

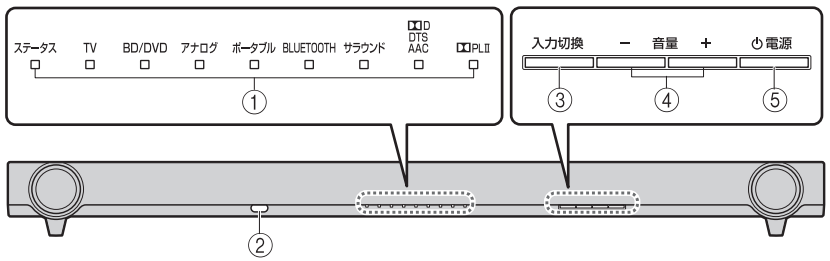
本製品でできること

本製品は簡単な設置、接続で迫力のサウンドをお楽しみいただける、サブウーファー内蔵のサウンドバーです。

- **AIR SURROUND XTREME（エア・サラウンド・エクストリーム）** AIR SURROUND XTREME
  定位感に優れた高品位なサラウンド再生をお楽しみいただけます（7 ページ）。
- **クリアボイス**
  人の声（セリフやアナウンスなど）を聞き取りやすくできます（7 ページ）。
- **ユニボリューム　UniVolume**
  番組や CM が切り替わる時や、音声ソースが切り替わる時の音量差を自動的に補正できます（7 ページ）。
- ***Bluetooth*® 接続**　Bluetooth®
  Bluetooth 対応機器の音声を手軽に再生することができます（8 ページ）。
- **テレビリモコン学習機能**
  テレビのリモコンを使って、サウンドバーの電源や音量を操作できます（11 ページ）。
- **テレビリモコンリピーター**
  テレビのリモコン受光部がサウンドバーで隠れてしまう場合に、サウンドバー経由でテレビのリモコン信号を転送して、テレビのリモコン操作を可能にします（12 ページ）。

サウンドバーの各部名称

◆ サウンドバー前面



① ランプ

サウンドバーの状態を表示します。
操作から 5 秒経過すると自動的に暗くなります。

② リモコン受光部

本機リモコンの赤外線信号を受信します（6 ページ）。
テレビリモコンリピーター機能が有効な場合に、テレビリモコンの赤外線信号を受信します（12 ページ）。

③ 入力切換ボタン

再生する機器を選びます（6 ページ）。

④ 音量（＋ / −）ボタン

音量を調節します（6 ページ）。

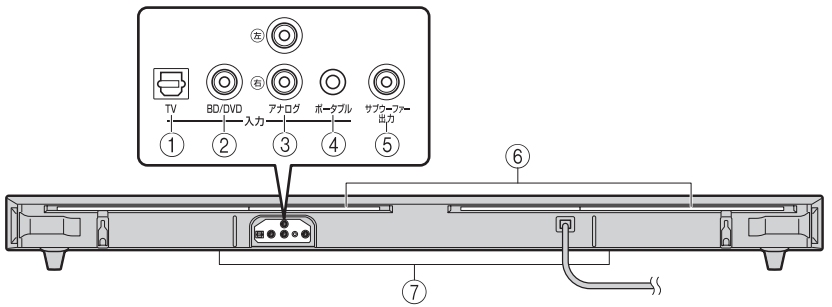
⑤ ⏻ 電源ボタン

サウンドバーの電源をオン / オフします（7 ページ）。

ヒント

以下のいずれかの条件で節電機能が作動した場合、電源は自動的に切れます。
- 操作がない状態で 8 時間経過
- 音声入力、および操作がない状態で 30 分経過

◆ サウンドバー背面



① TV 入力端子

光ファイバーケーブルを使ってテレビを接続します（5 ページ）。

② BD/DVD 入力端子

同軸デジタルケーブルを使って、ブルーレイディスクレコーダー（以下、BD レコーダー）などの再生機器を接続します（5 ページ）。

③ アナログ入力端子

アナログ音声用ステレオピンケーブルを使って外部機器を接続します（10 ページ）。

④ ポータブル入力端子

3.5mm ステレオミニプラグケーブルを使用したポータブルオーディオ機器などを接続します（10 ページ）。

⑤ サブウーファー出力端子

ピンケーブルを使って外部サブウーファーを接続します。
内蔵サブウーファー（初期設定）から外部サブウーファーへの設定切替えが必要です（13 ページ）。

⑥ テレビリモコンリピーター

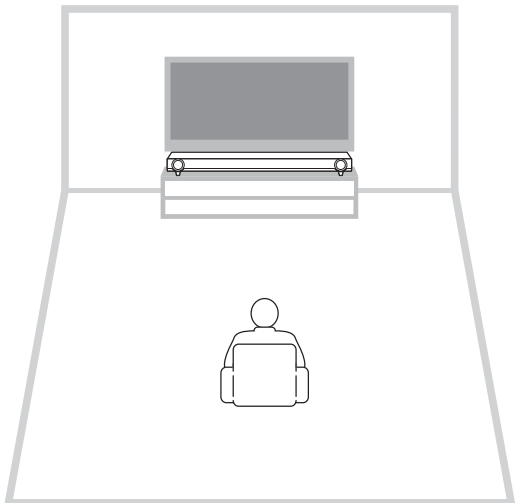
リモコン受光部で受信したリモコン信号をテレビに送信します（12 ページ）。

⑦ 内蔵サブウーファー

サブウーファーはサウンドバーの底面に内蔵されています。

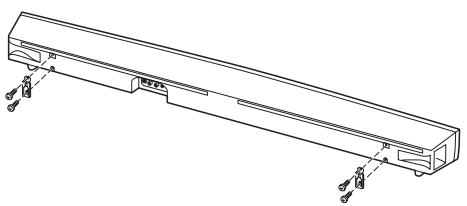
設置する

サウンドバーをテレビ台の上などに設置します。



ご注意

- サウンドバーと BD レコーダーなどを直接重ねないでください。振動により機器が故障することがあります。
- サウンドバー前面のサランネットには手をかけないでください。
- サウンドバーは非防磁のスピーカーを搭載しています。故障の原因となりますので、ハードディスクドライブなどをサウンドバーの近くに設置しないでください。
- サウンドバーと外部機器（テレビなど）の接続を考慮のうえ設置場所を決めてください。設置場所によっては、先に接続した方が良い場合があります。
- サウンドバーとテレビは 5 cm 以上離して設置してください。サウンドバー背面の壁掛け用金具は取り外すことができます。

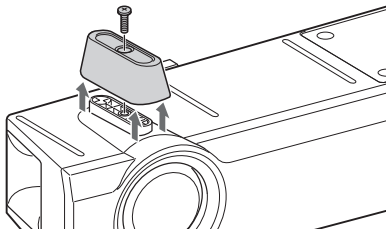


◆ 脚部を取り外す場合

サウンドバーでテレビ画面の一部やリモコン受光部が隠れてしまう場合は、サウンドバーの脚部（18mm）を取り外してください。

ヒント

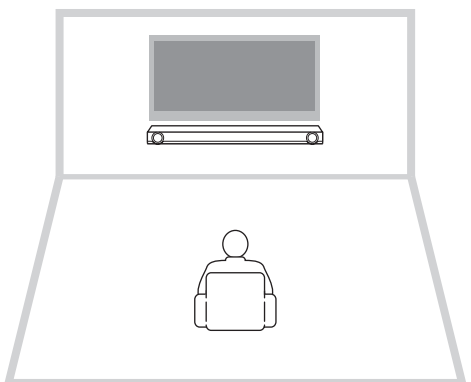
- テレビを操作しにくい場合は、テレビリモコンリピーター機能（12 ページ）をご利用ください。



ポイント

- 取り外した脚部やネジは大切に保管してください。

◆ 壁に取り付ける場合

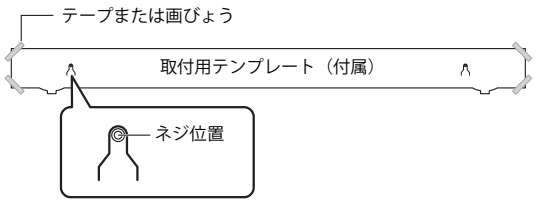


ご注意

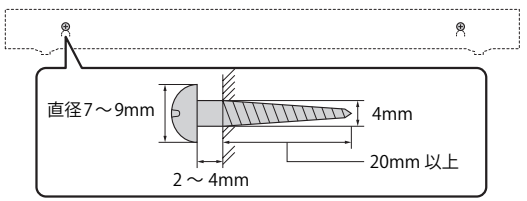
- 取付工事は専門業者、または販売店に依頼してください。お客様自身で作業しないでください。設置方法を間違えると、サウンドバーが落下し、けがの原因になります。
- しっくいやベニヤ板のような弱い材質の壁には設置しないでください。本体が落下する原因になります。
- 市販のネジは、規定サイズ（右記手順 2 参照）で十分な強度があるものをご用意ください。くぎや両面テープ、規定サイズ以外のネジを使用すると本体が落下する原因になります。

壁への取り付け手順

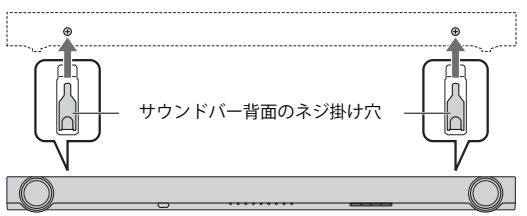
1 取付用テンプレートを壁に仮付けし、ネジ位置の印をつける。



2 取付用テンプレートを壁から取り外し、壁（印の位置）に市販のネジを取り付ける。



3 サウンドバーをネジに掛けて設置する。



ご注意

- ケーブル類は必ず固定してください。誤って手や足に引っ掛かると、サウンドバーが落下する原因になります。
- 設置後、サウンドバーがしっかりと固定されていることを確認してください。誤った設置により起きた事故について、弊社は責任を負いかねますのでご了承ください。

接続する

テレビ（または、周辺機器）とサウンドバーを接続します。

ご注意
- サウンドバーの電源ケーブルをコンセントから外した状態で接続を始めてください。
- ケーブルプラグを端子に差し込む際に、強い衝撃を与えないようにしてください。破損の原因になります。

1 光ファイバーケーブル（付属）でテレビとサウンドバーを接続する。

光ファイバーケーブルのキャップを取り、向きを確認して差し込みます。

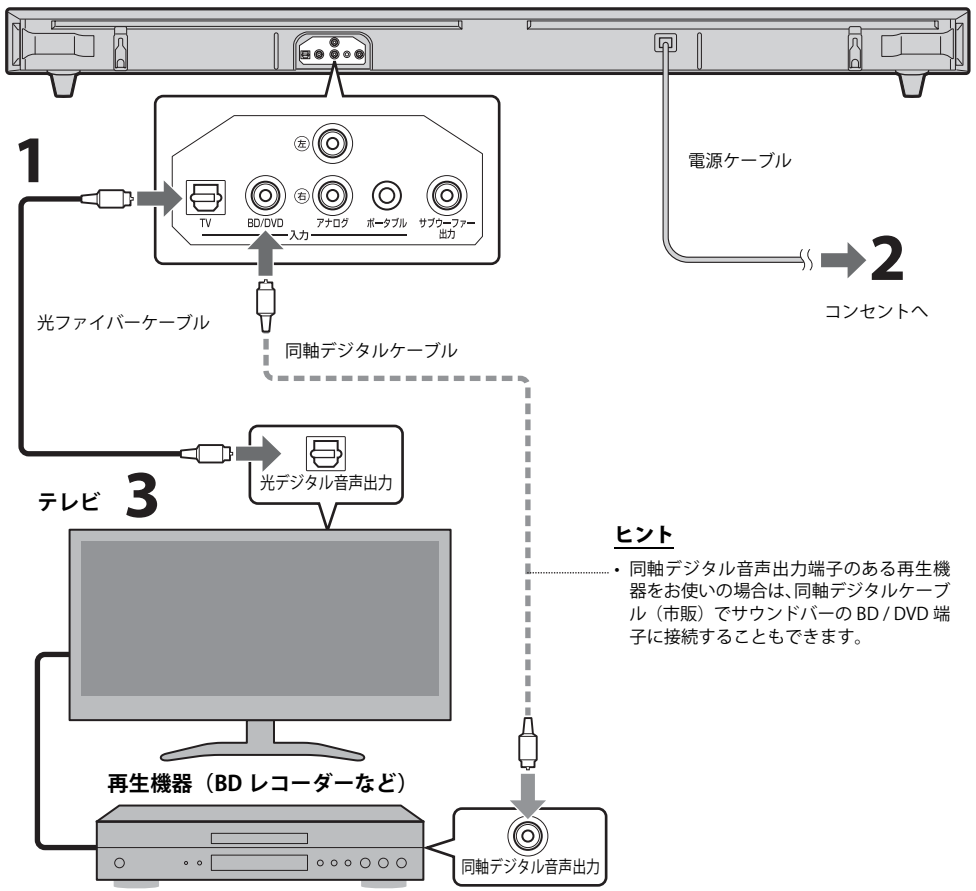


2 サウンドバーの電源ケーブルをコンセントに接続する。

3 テレビを次のように設定する。
- 音量を最小にする。
- テレビ内蔵スピーカーの音声出力を無効にする。（設定可能な場合）

ヒント
- 手順 3 でテレビに内蔵スピーカーの音量設定がない場合は、ヘッドホン / イヤホン端子にヘッドフォンや変換プラグなどを接続することで、内蔵スピーカーの音声出力をオフできる場合があります。
  詳しくはテレビの取扱説明書をご覧ください。
- TV、BD/DVD 端子は以下の音声信号に対応しています。
  - PCM (2ch)
  - Dolby Digital (5.1ch まで)
  - DTS Digital Surround (5.1ch まで)
  - AAC (5.1ch まで)
- アナログ入力端子、ポータブル入力端子については 10 ページ、外部サブウーファー出力端子については 13 ページをご覧ください。

サウンドバー（背面）

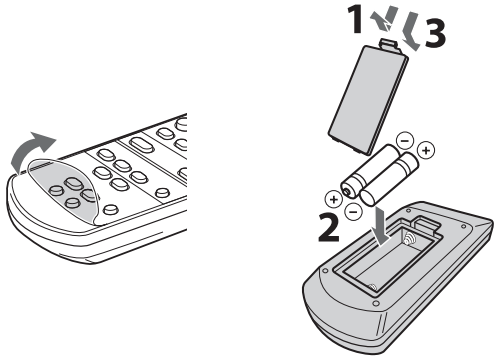


ヒント
- 同軸デジタル音声出力端子のある再生機器をお使いの場合は、同軸デジタルケーブル（市販）でサウンドバーの BD / DVD 端子に接続することもできます。

操作する

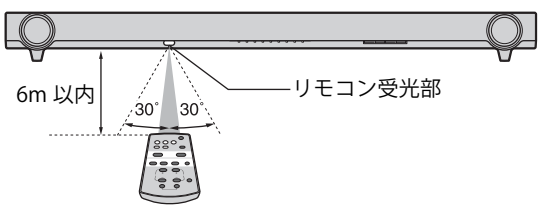
◆ リモコンの準備

保護シートは、はがしてお使いください。



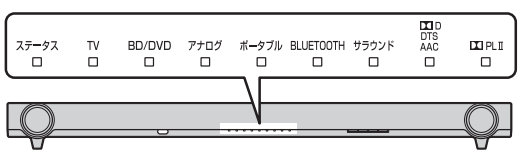
◆ リモコンの操作範囲

以下の範囲内で操作してください。



◆ ランプの表示

サウンドバーの前面ランプが点滅 / 点灯することで、操作や設定状況を示します。



入力ボタン

再生する音声ソースを選びます。

TV ボタン.....テレビの音声
BD/DVD ボタン.....BD / DVD端子に接続した機器の音声
アナログボタン.....アナログ端子に接続した機器の音声
ポータブルボタン.....ポータブル端子に接続した機器の音声
BLUETOOTH ボタン.....*Bluetooth* 機器の音声

選んだ音声ソースのランプが点灯します。

（例：TV 選択時）

TV ■　BD/DVD □　アナログ □　ポータブル □　BLUETOOTH □

ヒント

- テレビに接続した再生機器の音声や映像を視聴する場合は、テレビ側の入力切換で再生機器を選んでください。
- *Bluetooth* の使用については、「Bluetooth 機器の音楽を聴く」（8 ページ）をご覧ください。

サブウーファーボタン（＋ / －）

サブウーファーの音量を調節します。

□ □ □ □ ■ □ □ □ □

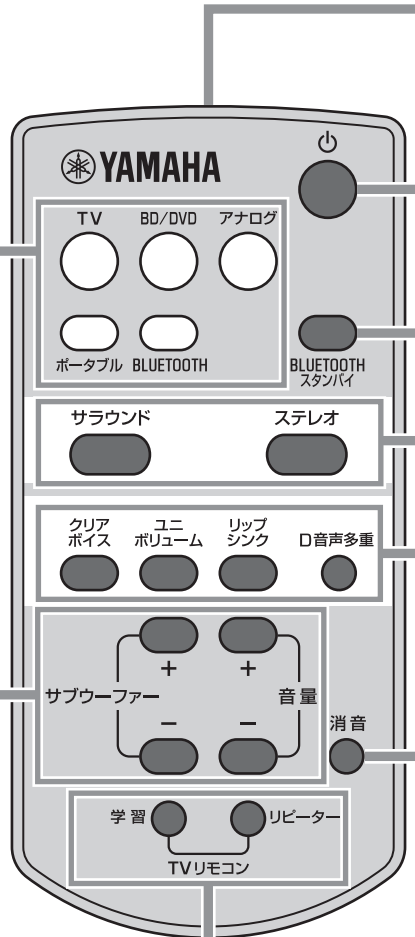
音量が下がる（－） ⟷ 音量が上がる（＋）

音量ボタン（＋ / －）

サウンドバーの音量を調節します。

☼ ☼ ☼ ☼ ☼ □ □ □ □

音量が下がる（－） ⟷ 音量が上がる（＋）



学習ボタン

テレビリモコン学習機能を設定します（11 ページ）。

リピーターボタン

テレビリモコンリピーター機能を有効 / 無効にします（12 ページ）。

リモコン信号送信部

赤外線信号を送信します。

⏻ 電源ボタン

サウンドバーの電源をオン / オフします。

ステータス ■ 緑（電源オン）

ステータス ■ 赤（*Bluetooth* スタンバイ状態）

ステータス □ 消灯（電源オフ）

BLUETOOTH スタンバイボタン

Bluetooth スタンバイモードの有効 / 無効を切り替えます（9 ページ）。

サラウンドボタン / ステレオボタン

サラウンド再生、ステレオ再生（2ch ステレオ）を切り替えます。
サラウンド再生を選ぶと、ヤマハ音場創生技術　AIR SURROUND XTREME（エア・サラウンド・エクストリーム）により、臨場感のある音響効果を楽しむことができます。

サラウンドボタン・・・・ サラウンド ■ 点灯（サラウンド再生）

ステレオボタン・・・・ サラウンド □ 消灯（ステレオ再生）

ヒント

- 2ch ステレオ信号をサラウンドで再生しているときは、PLII ランプが点灯します。

PLII ■ 点灯（ドルビープロロジック II）

消音ボタン

消音します。もう一度押すと消音を解除します。

□ ☼ ☼ ☼ ☼ ☼ ☼ ☼ □

点滅（消音中）

クリアボイスボタン

クリアボイス機能の有効 / 無効を切り替えます。
クリアボイスを使用すると、映画やドラマのセリフ、ニュースやスポーツ中継のアナウンスなど、人の声が聞き取りやすくなります。

□ □ □ ☼ ☼ ☼ □ □ □

3 回点滅（有効に設定時）、1 回点滅（無効に設定時）

ユニボリュームボタン

ユニボリューム機能の有効 / 無効を切り替えます。
ユニボリュームを使用すると、番組や CM が切り替わる時や、音声ソースが切り替わる時の音量差を自動的に補正できます。

□ □ □ ☼ ☼ ☼ □ □ □

3 回点滅（有効に設定時）、1 回点滅（無効に設定時）

ヒント

- 入力が BLUETOOTH / ポータブルのとき、ユニボリュームは無効になります。

リップシンクボタン

映像が音声よりも遅れている場合に、映像を見ながら音（セリフなど）が口の動きに一致するように調整します。
以下の手順で調整してください。

1 リップシンクボタンを 3 秒以上押す。

リップシンク調整モードになり、左端のランプが点滅します。

☼ □ □ □ □ □ □ □ □

2 サブウーファーボタンで音声の出力タイミングを調整する。

☼ ■ □ □ □ □ □ □ □

音声が早くなる（−）　　音声が遅くなる（+）

3 調整が終わったら、リップシンクボタンを押す。

ヒント

- 最後の操作から 20 秒経過すると、自動的に調整モードが終了します。

D 音声多重ボタン

地上デジタル /BS デジタル放送（モノラル多重音声）の主音声 / 副音声を切り替えます。ボタン操作時に点滅するランプの色で、選択中の音声を確認できます。

D DTS AAC ☼ 緑（主音声）、赤（副音声）、オレンジ（主音声＋副音声）

◆ デコーダー表示

サウンドバーは以下の音声信号に対応しています。サウンドバーに音声が入力されているときは、ランプの色で信号の種類を確認できます。

D DTS AAC ■ 緑（ドルビーデジタル）、赤（DTS デジタルサラウンド）、オレンジ（MPEG2 AAC）

D DTS AAC □ 消灯（PCM）

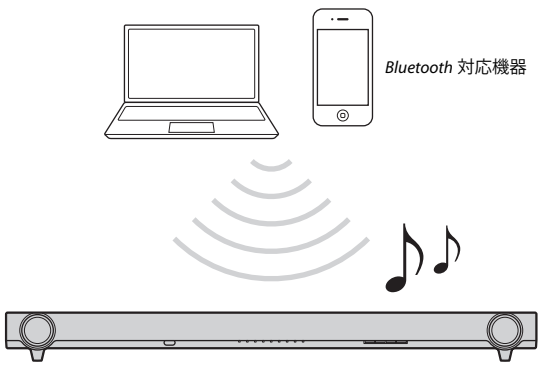
◆ 節電機能

サウンドバーには、節電機能が備わっています。以下のいずれかの条件で自動的に電源が切れます。

- 操作がない状態で 8 時間経過
- 音声入力、および操作がない状態で 30 分経過

*Bluetooth*機器の音楽を聴く

スマートフォンやデジタル音楽プレーヤーなどの *Bluetooth* に対応した機器の音声を、ワイヤレスで再生することができます。
ご使用の際には、*Bluetooth* 対応機器の取扱説明書もあわせてご覧ください。



Bluetooth 対応機器をサウンドバーで楽しむには、以下の流れで操作してください。

はじめての操作 → **ペアリングを行う** → ***Bluetooth* 対応機器を接続して 再生する**

2 回目以降の操作 → ***Bluetooth* 対応機器を接続して 再生する**

サウンドバーに *Bluetooth* 機器を登録する（ペアリング）

はじめて接続するときは、*Bluetooth* 対応機器をサウンドバーに登録します。これを「ペアリング」といいます。
ペアリングが完了すれば、通常 2 回目以降は自動で接続されます。

1 リモコンの BLUETOOTH ボタンを押し、入力を *Bluetooth* に切り換える。

サウンドバーの BLUETOOTH ランプが緑色に点灯します。

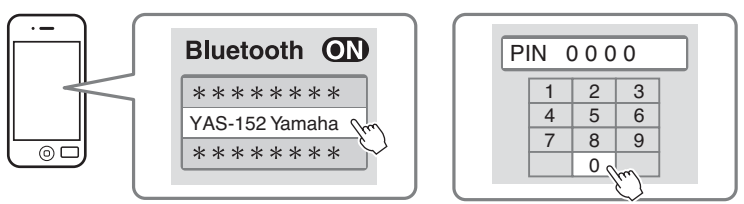


2 対応機器側の *Bluetooth* 機能をオンにして、ペアリング操作を行う。

対応機器により操作は異なります。お使いの機器の取扱説明書をご確認ください。

3 対応機器側で *Bluetooth* リストが表示されたら、「YAS-152 Yamaha」を選ぶ。

パスキー（PIN）の入力が必要な対応機器は、数字の「００００」を入力します。



対応機器側に、または接続完了メッセージが表示されたら、ペアリングは完了です。

ポイント

- ペアリングは、サウンドバーと対応機器の距離が 10m の範囲内で行ってください。
- サウンドバーは最大 8 台の対応機器とペアリングできます。9 台目の対応機器とのペアリングが成功すると、接続した日時がもっとも古い機器のペアリング情報が削除されます。
- ペアリング情報が削除された場合には、再度ペアリングを行う必要があります。
- 別の *Bluetooth* 対応機器が接続されている場合は、接続中の機器をいったん切断してから（9 ページ）、ペアリングを行ってください。
- ペアリングができない場合は、「困ったときは」の「*Bluetooth*」（16 ページ）をご覧ください。

サウンドバーで *Bluetooth* 機器を再生する

1 電源オンの状態でリモコンのBLUETOOTHボタンを押し、入力を*Bluetooth*に切り換える。

サウンドバーの BLUETOOTH ランプが緑色に点灯します。

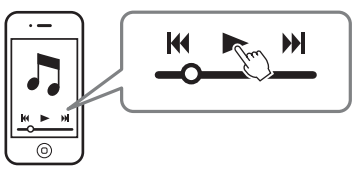


2 対応機器側の *Bluetooth* 機能をオンにする。

Bluetooth が正常に接続されると、サウンドバーの BLUETOOTH ランプが 3 回点滅します。



3 対応機器側で曲を再生する。



ポイント

- *Bluetooth* 接続は、サウンドバーから 10m の範囲以内で操作してください。
- 必要に応じて、対応機器側の *Bluetooth* 接続リストから「YAS-152 Yamaha」を再度選んでください。お使いの機器によっては、音声の出力先として本機を設定する必要があります。
- 必要に応じて、対応機器側の音量を調整してください。
- 別の *Bluetooth* 対応機器が接続されている場合は、接続中の機器をいったん切断してから接続してください。

Bluetooth 接続を切断する

Bluetooth 接続中に以下のいずれかの操作を行うと、*Bluetooth* 接続が切断されます。
切断されると BLUETOOTH ランプが 1 回点滅します。

- **対応機器側で *Bluetooth* 機能をオフにする。**
- **リモコンの BLUETOOTH ボタンを 3 秒以上押す。**
- **サウンドバーの電源をオフにする。**

Bluetooth スタンバイモードを利用する

Bluetooth スタンバイモードを使うと、対応機器側の *Bluetooth* 操作に連動して自動的にサウンドバーの電源をオン / オフすることができます。

設定方法

電源オンの状態で、リモコンのBLUETOOTHスタンバイボタンを3秒以上押す。

BLUETOOTH スタンバイボタンを 3 秒押すごとに、有効 / 無効に設定が切り替わります。



Bluetooth スタンバイモードを有効に設定すると、サウンドバーの電源をオフにしたときに、ステータスランプが赤色に点灯します（***Bluetooth* スタンバイ状態**）。



Bluetooth スタンバイモードが有効のとき、対応機器側からの電源連動は以下のように機能します。

電源オン連動（サウンドバーが電源オフの状態）
対応機器側でサウンドバーに *Bluetooth* 接続すると、サウンドバーの電源もオンになり、すぐに *Bluetooth* 機器の音声を再生できる状態になります。

電源オフ連動（サウンドバーが電源オンの状態）
対応機器側でサウンドバーの *Bluetooth* 接続を切断すると、サウンドバーの電源もオフになります（入力が BLUETOOTH のときのみ）。

アプリで便利に使いこなす

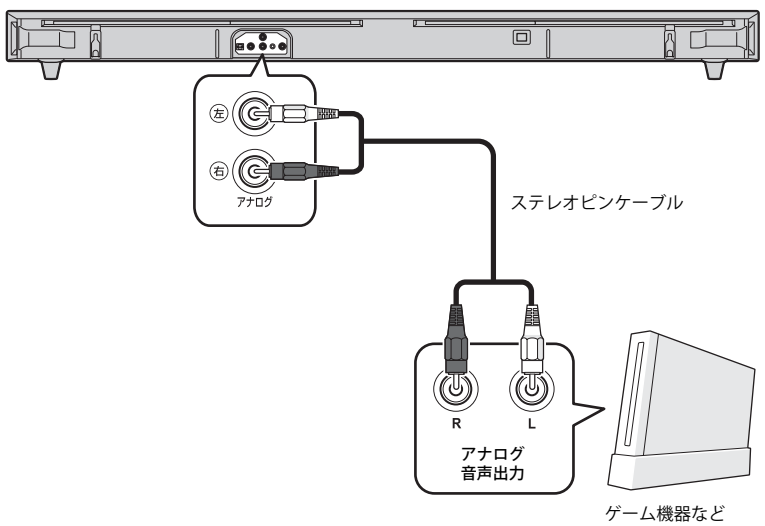
専用の無料アプリケーション「Home Theater Controller」を *Bluetooth* 対応のスマートフォンなどにダウンロードすると、端末機器からサウンドバーをより便利に操作することができます。
（設定項目：基本操作、音場、音質設定など）

「Home Theater Controller」の詳細については、弊社ウェブサイトの製品情報をご確認ください。

外部機器の音声を聴く

ゲーム機器などのアナログ接続

ゲーム機器などの外部機器を、本機のアナログ入力端子に接続します。

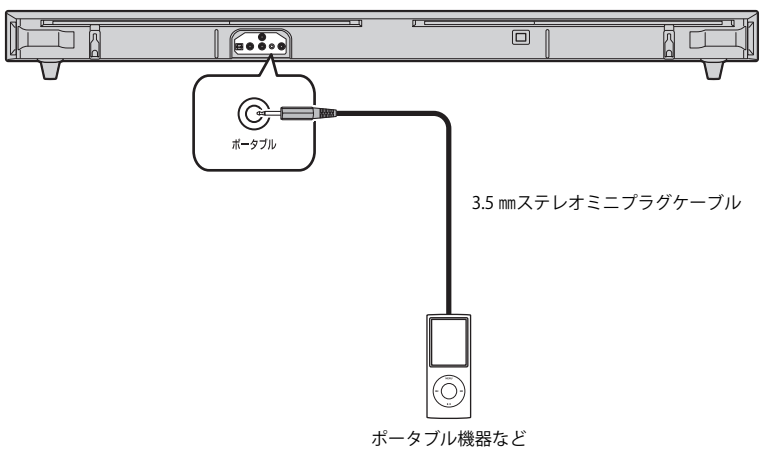


ポイント

- 左音声（L）と右音声（R）をよく確認して接続してください。
- リモコンの入力ボタンは、「アナログ」を選んでください。

ポータブル機器のアナログ接続

携帯音楽プレーヤーなどの外部機器を本機のポータブル入力端子に接続します。



ポイント

- リモコンの入力ボタンは、「ポータブル」を選んでください。
- 必要に応じて、ポータブル機器側の音量を調整してください。

設定する

テレビのリモコンでサウンドバーを操作する（テレビリモコン学習機能）

テレビのリモコン信号をサウンドバーに学習させて、テレビのリモコンでサウンドバーの電源操作や音量調節を可能にします。

- この機能は、テレビのリモコンが赤外線信号を使用している場合のみ利用できます。
- サウンドバーの設置や設定状況により、テレビのリモコンを操作した際に、サウンドバーとテレビが同時に動作する場合があります。

1 テレビとサウンドバーの電源をオフにする。

2 本機リモコンの学習ボタンを 3 秒以上押し、学習モードに入る。

学習モード中は、サウンドバー前面のランプが以下のように点滅します。

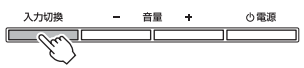


ポイント

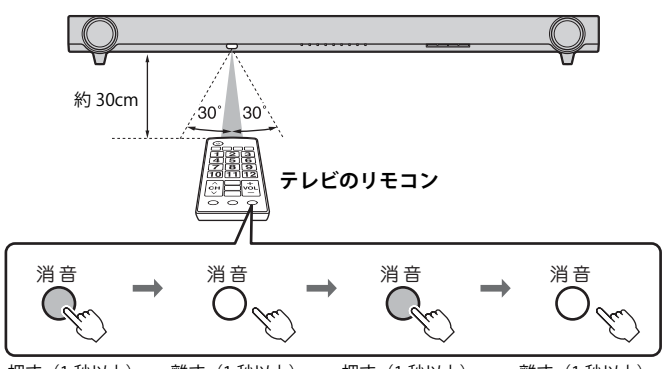
- これ以降の手順3～6は、「テレビのリモコン」と「サウンドバー本体のボタン」のみで設定します（本機のリモコンは使用しません）。

3 消音（MUTE）ボタンを学習させる。

3-1 サウンドバー前面の入力切換ボタンを押す。



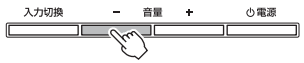
3-2 テレビのリモコンをサウンドバーのリモコン受光部に向け、リモコンの消音（MUTE）ボタンを 1 秒以上押して離す操作を 2 ～ 3 回繰り返す。



結果	音の回数	ランプ
学習成功	1 回	□ ☼ ■ □ □ □ ☼ □ □ 点灯
学習失敗 ※3-1からやり直してください。	2 回	□ ☼ ☼ ☼ ☼ ☼ ☼ □ □ 点滅

4 音量（－）ボタンを学習させる。

4-1 サウンドバー前面の音量（－）ボタンを押す。



4-2 テレビのリモコンをサウンドバーのリモコン受光部に向け、リモコンの音量（－）ボタンを 1 秒以上押して離す操作を 2 ～ 3 回繰り返す。

結果	音の回数	ランプ
学習成功	1 回	□ ☼ □ ■ □ □ ☼ □ □ 点灯
学習失敗 ※4-1からやり直してください。	2 回	□ ☼ ☼ ☼ ☼ ☼ ☼ □ □ 点滅

5 音量（＋）ボタンを学習させる。

5-1 サウンドバー前面の音量（＋）ボタンを押す。



5-2 テレビのリモコンをサウンドバーのリモコン受光部に向け、リモコンの音量（＋）ボタンを 1 秒以上押して離す操作を 2 ～ 3 回繰り返す。

結果	音の回数	ランプ
学習成功	1 回	□ ☼ □ □ ■ □ ☼ □ □ 点灯
学習失敗 ※5-1からやり直してください。	2 回	□ ☼ ☼ ☼ ☼ ☼ ☼ □ □ 点滅

次ページへ続く➔

6 電源ボタンを学習させる。

6-1 サウンドバー前面の⏻電源ボタンを押す。



6-2 テレビのリモコンをサウンドバーのリモコン受光部に向け、リモコンの電源ボタンを 1 秒以上押して離す操作を 2 ～ 3 回繰り返す。

結果	音の回数	ランプ
学習成功	1 回	□ ☼ □ □ □ ■ ☼ □ □ 点灯
学習失敗 ※6-1からやり直してください。	2 回	□ ☼ ☼ ☼ ☼ ☼ ☼ □ □ 点滅

7 学習が終わったら、サウンドバーのリモコンの学習ボタン、または⏻電源ボタンを押す。

これで設定完了です。テレビのリモコンの電源ボタンや音量ボタンでサウンドバーを操作できます。

ヒント

- 無操作のまま 5 分経過すると、自動的に学習モードが終了します。
- テレビの音量を最小に設定してお使いください。テレビのリモコンでサウンドバーの音量を上げると、テレビの音量も上がってしまう場合があります。その場合は、「接続する」（5 ページ）の手順 3 に従ってテレビを設定してください。

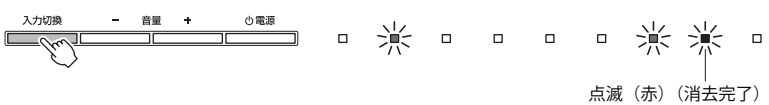
学習した機能をすべて消去する

1 電源オフの状態で、サウンドバーのリモコンの学習ボタンを3秒以上押し、学習モードに入る。

学習モード中は、サウンドバー前面のランプが以下のように点滅します。



2 サウンドバー前面の入力切換ボタンを 3 秒以上押す。



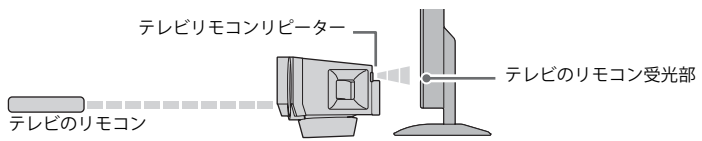
消去が完了すると、音が 3 回鳴ります。

3 サウンドバーのリモコンの学習ボタン、または⏻電源ボタンを押す。

サウンドバー経由でテレビを操作する（テレビリモコンリピーター機能）

「テレビリモコンリピーター機能」を使用すると、サウンドバー前面のリモコン受光部で受信したテレビのリモコン信号を、背面のテレビリモコンリピーターから送信できます。サウンドバーでテレビのリモコン受光部が隠れてしまい、テレビを操作しにくい場合などにご利用ください。

この機能は、テレビのリモコンが赤外線信号を使用している場合のみ利用できます。



1 サウンドバーの電源をオンにする。

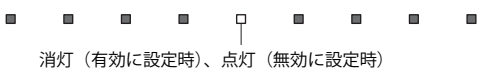
2 サウンドバーのリモコンのリピーターボタンを 3 秒以上押して、テレビリモコンリピーター機能を有効 / 無効にする。



これで設定完了です。テレビリモコンリピーター機能が有効なときは、サウンドバー経由でテレビのリモコン操作が可能になります。

ヒント

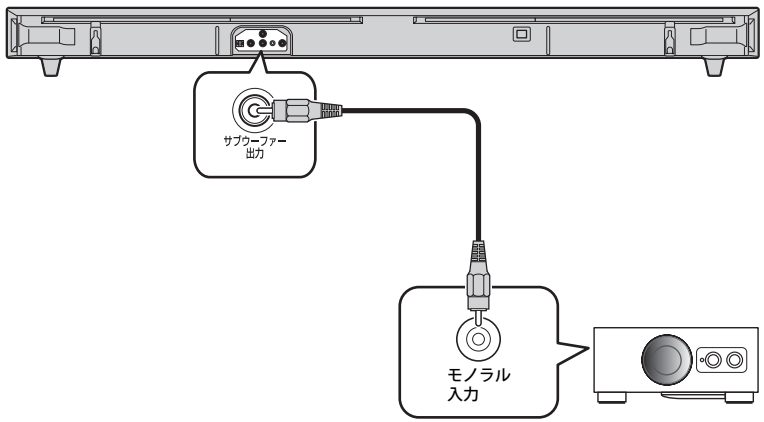
- 初期設定では無効になっています。
- 有効に設定した場合、電源オフ状態でも電源プラグがコンセントに接続されていれば、テレビのリモコン操作が可能です。
- テレビリモコン学習機能で音量（＋）ボタンを学習させた場合（11 ページ）、テレビのリモコンでサウンドバーの音量を上げると、テレビの音量も上がってしまう場合があります。その場合は、「接続する」（5 ページ）の手順 3 に従ってテレビを設定してください。
- サウンドバーの電源をオンにしたときに、中央のランプでテレビリモコンリピーター機能の設定状態を確認できます。



外部サブウーファーを使用する

本機はサブウーファーを内蔵していますが、外部サブウーファーに切り替えて使用することもできます。外部サブウーファーを使用する場合は、以下の手順で設定してください。

1 サウンドバーに外部サブウーファーを接続する。



2 電源オフ状態で、リモコンのサブウーファー（ー）ボタンを 5 秒以上押す。



外部サブウーファーに切り替わると同時に、サウンドバーがオンになります。

サウンドバーの電源をオンにしたときに、以下のランプ表示でサブウーファーの設定状態を確認できます。



消灯（外部サブウーファー設定時）、点灯（内蔵サブウーファー設定時）

内蔵サブウーファーに設定を戻すには、電源オフの状態でリモコンのサブウーファー（＋）ボタンを 5 秒以上押してください。

ポイント

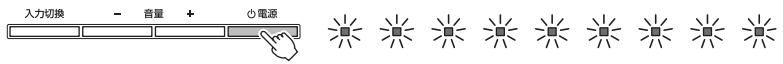
- 初期設定は内蔵サブウーファーです。
- 内蔵 / 外部サブウーファーは同時には使えません。
- 外部サブウーファーは、アンプが内蔵されているタイプのものをご使用ください。

設定を初期化する

サウンドバーの設定をすべて初期化します。

1 サウンドバーの電源をオフにする。

2 サウンドバー前面の⏻電源ボタンを 3 秒以上押す。



点滅（初期化完了）

困ったときは

ご使用中に本機が正常に動作しなくなった場合は、下記をご確認ください。対処しても正常に動作しない場合や、下記以外で異常が認められた場合は、本機の電源を切り、電源プラグを抜いて、お買い上げ店、または巻末の「お問い合わせ窓口」までお問い合わせください。

最初に以下の点を確認してください。

① サウンドバー、テレビ、再生機器（BD レコーダーなど）の電源プラグが AC コンセントにしっかりと接続されている。

② サウンドバー、テレビ、再生機器（BD レコーダーなど）の電源が入っている。

③ 各機器間のケーブルが端子にしっかりと接続されている。

◆ 電源 / 動作全般

症状	原因	対策
電源が突然切れる	節電機能により電源が切れた。 以下のいずれかの条件で自動的に電源が切れます。 - 操作がない状態で 8 時間経過 - 音声入力、および操作がない状態で 30 分経過	—
	外部電気ショック（落雷、過度の静電気など）や、電源電圧の低下により、内部マイコンがフリーズしている。	サウンドバー前面の⏻電源ボタンを 10 秒以上押して再起動してください。 （それでも解決しない場合は、電源プラグをコンセントから抜き、接続し直してください。）
電源が入らない	保護回路が 3 回続けて作動した。 （この状態で電源を入れようとすると、本体前面のステータスランプが点滅します。）	製品保護のため、電源が入らなくなります。電源プラグをコンセントから抜き、修理ご相談センターにお問い合わせください。
サウンドバーが正常に動作しない	外部電気ショック（落雷、過度の静電気など）や、電源電圧の低下により、内部マイコンがフリーズしている。	サウンドバー前面の⏻電源ボタンを 10 秒以上押して再起動してください。 （それでも解決しない場合は、電源プラグをコンセントから抜き、接続し直してください。）
操作をしていないのにサウンドバーが動作する	近くで、別の *Bluetooth* 対応機器が使用されている。	*Bluetooth* 接続をいったん切断し、接続し直してください（9 ページ）。
テレビの 3D メガネが機能しない	サウンドバーがテレビの 3D メガネ用発信部を隠している。	テレビの 3D メガネ発信部の位置を確認し、発信部が隠れないようにサウンドバーを移動してください。 必要に応じて、サウンドバーの脚部を取り外してください（4 ページ）。

◆ 音声

症状	原因	対策
音が出ない	再生したい入力が選ばれていない。	正しい入力を選んでください（6 ページ）。
	消音されている。	消音を解除してください（7 ページ）。
	音量が小さい。	音量を上げてください（6 ページ）。
サブウーファーから音が出ない	サブウーファーの音量が小さい。	サブウーファーの音量を上げてください（6 ページ）。
	再生している音声にサブウーファーチャンネルの信号や低音信号が含まれていない。	—
	内蔵サブウーファーと外部サブウーファーの設定が正しくない（13 ページ）。	サウンドバーの電源がオフの状態で、リモコンのサブウーファーボタン（＋ / －）を 5 秒以上押し、サブウーファー設定（内蔵 / 外部）を切り替えてください（13 ページ）。
電源を入れ直すと音量が下がる	音量自動調節機能により音量が下がった。 （突然大音量が出力されるのを防ぐため、音量が大きい状態で電源を切った場合、次回電源を入れたときに音量が自動的に調節されます。）	必要に応じて、音量を上げてください（6 ページ）。
サラウンド感が得られない	ステレオ再生が選ばれている。	サラウンド再生に切り換えてください（7 ページ）。
	音量が小さい。	音量を上げてください（6 ページ）。
	テレビ、または再生機器が常に 2 チャンネル（PCM など）で出力するように設定されている。	テレビ、または再生機器の音声出力設定を変更してください。
雑音が入る	デジタル機器や高周波機器がサウンドバーの近くに置かれている。	該当機器をサウンドバーから離してください。

◆ リモコン操作

症状	原因	対策
サウンドバーを操作できない	操作範囲から外れている。	操作範囲内で操作してください（6 ページ）。
	乾電池が消耗している。	新しい乾電池に交換してください（6 ページ）。
	サウンドバーのリモコン受光部に日光や強い照明が当たっている。	照明、またはサウンドバーの向きを変えてください。
テレビのリモコンでテレビを操作できない	テレビのリモコン受光部がサウンドバーで隠れている。	テレビリモコンリピーター機能を使用するか（12 ページ）、サウンドバー脚部を取り外してテレビのリモコン受光部が隠れないようにしてください（4 ページ）。
	テレビ本体、またはテレビのリモコンに問題がある。	テレビの取扱説明書をご覧ください。
テレビリモコンリピーター機能を使ってテレビを操作できない	テレビリモコンリピーター機能が無効になっている。	テレビリモコンリピーター機能を有効にしてください（12 ページ）。
	赤外線信号以外のリモコンを使用している。（赤外線リモコンでも対応していない場合があります。）	この場合はテレビリモコンリピーター機能を利用できません。テレビのリモコン受光部が隠れないようにサウンドバーを移動し、テレビのリモコンでテレビを直接操作してください。
	サウンドバーとテレビの距離が遠すぎる、または近すぎる。	サウンドバーとテレビの距離を 5cm 以上離してください。（4 ページ）。 必要に応じて、サウンドバー脚部の取り外し、取り付けを行ってください（4 ページ）。
	サウンドバーとテレビの間に障害物（ケーブルなど）がある。	サウンドバーとテレビの間の障害物を取り除いてください。
テレビリモコンを学習させることができない	学習させたいボタンを押している長さが短すぎる。	1 秒以上押し続けて 1 秒以上離す操作を 2 ～ 3 回繰り返してください（11 ページ）。
	赤外線信号以外のリモコンを使用している。（赤外線リモコンでも対応していない場合があります。）	この場合は学習機能を利用できません。付属のリモコンで操作してください。
	テレビのリモコンを適切な位置で操作していない。	適切な位置で操作してください（11ページ）。
	テレビのリモコンの乾電池が消耗している。	新しい乾電池に交換してください。
	サウンドバーのリモコン受光部に日光や強い照明が当たっている。	照明、またはサウンドバーの向きを変えてください。
	テレビ画面の光がリモコン信号を妨害している。	テレビの電源を切った状態で、テレビのリモコン信号をサウンドバーに学習させてください（11 ページ）。
テレビリモコンでサウンドバーの音量を上げると、テレビから音声が出力される（学習機能使用時）	テレビの音声出力が有効になっている。	テレビ側の設定で、テレビ（内蔵スピーカー）の音声出力を無効にしてください。テレビに該当する設定がない場合は、以下の方法をお試しください。 - お手持ちのヘッドホン、変換プラグなどをテレビのヘッドホン / イヤホン端子に接続する。 - テレビの音量を最小にする。
サウンドバーとテレビの電源が逆になる（例：サウンドバーの電源を入れるとテレビの電源が切れる）（学習機能使用時）	テレビリモコンをサウンドバーに学習させた際に、テレビの電源が入っていた。	テレビ本体の電源ボタンとサウンドバー前面の⏻電源ボタンで両方の電源を入れてから、テレビリモコンの電源ボタンでテレビとサウンドバーの電源を切ってください。

◆ *Bluetooth*

症状	原因	対策
サウンドバーと対応機器がペアリングできない。	サウンドバーの入力が *Bluetooth* 以外になっている。	入力を *Bluetooth* にしてください。
	対応機器が A2DP に対応していない。	A2DP に対応した機器とペアリングしてください。
	Bluetooth アダプターなどの機器でパスキーが「0000」以外になっている。	パスキーが「 0000 」の機器をご使用ください。
	サウンドバーと対応機器の距離が離れすぎている。	対応機器をサウンドバーに近づけてください。
	2.4 GHz 帯の電磁波を発するもの（電子レンジ、無線 LAN 機器など）がそばにある。	サウンドバーを電磁波を発するものから離して設置してください。
	別の *Bluetooth* 対応機器が既に接続されている。	接続中の機器をいったん切断してから、ペアリングしてください。
***Bluetooth* 接続ができない。**	別の *Bluetooth* 対応機器が既に接続されている。	サウンドバーは複数の *Bluetooth* 対応機器とは接続できません。現在接続中の対応機器をいったん切断してから、接続し直してください。
	9台以上の対応機器とペアリングしたために、ペアリング情報が削除された。	再度ペアリングしてください。 サウンドバーは最大８台の対応機器とペアリングが可能ですが、９台目を登録すると、最も古いペアリング情報は削除されます。
音が出ない、または音が途切れる。	対応機器との *Bluetooth* が切断された。	接続し直してください（8 ページ）。
	サウンドバーと対応機器の距離が離れすぎている。	対応機器をサウンドバーに近づけてください。
	2.4 GHz 帯の電磁波を発するもの（電子レンジ、無線 LAN 機器など）がそばにある。	サウンドバーを電磁波を発するものから離して設置してください。
	対応機器の *Bluetooth* 接続がオフになっている。	対応機器の *Bluetooth* 機能をオンにしてください。
	対応機器が *Bluetooth* 信号をサウンドバーに送っていない。	対応機器の *Bluetooth* 機能が正しく設定されているか確認してください。
	対応機器側での再生操作をしていない。	対応機器側で再生してください。
	対応機器の音量が最小になっている。	対応機器の音量を上げてください。

主な仕様

項目		サウンドバー（YAS-152）
アンプ部	実用最大出力	フロント L/R　30W x 2ch
		サブウーファー　（30 x 2）W
フロント スピーカー部	形式	密閉型（非防磁）
	ユニット	6.5cm コーン x2
	再生周波数帯域	150Hz ～ 22kHz
サブウーファー部	形式	バスレフ型（非防磁）
	ユニット	8.5cm コーン x2
	再生周波数帯域	45Hz ～ 150Hz
デコーダー部	対応音声信号	PCM (2ch) Dolby Digital DTS Digital Surround AAC (5.1ch まで)
入力端子	光デジタル（光）	1（TV）
	同軸デジタル（同軸）	1（BD/DVD）
	アナログ（RCA）	1（アナログ）
	アナログ （3.5mm ステレオミニ）	1（ポータブル）
出力端子	アナログ （RCA/ モノラル）	1（サブウーファー出力）
Bluetooth	*Bluetooth* バージョン	Ver2.1+EDR
	対応プロファイル	A2DP
	対応コーデック	SBC、AAC
	無線出力	*Bluetooth* Class2
	最大通信距離	10m（障害物が無いこと）
	対応コンテンツ保護	SCMS-T 方式
総合	電源電圧	AC 100V、50/60Hz
	消費電力	22W
	待機消費電力	0.5W 以下
	寸法（幅 x 高さ x 奥行き）	1200 x 90 x 128mm（脚部 / ブラケット含まず）
		1200 x 108 x 136mm（脚部 / ブラケット含む）
	質量	4.8kg

* 仕様、および外観は、改良のため予告なく変更することがあります。

AIR SURROUND XTREME

本機はヤマハ独自のバーチャルサラウンド技術「AIR SURROUND XTREME」を搭載しています。
定位感に優れた高品位な 7.1ch サラウンド再生を本体 1 台のみで実現します。

UniVolume

「ユニボリューム」「UniVolume」は、ヤマハ株式会社の商標です。

Bluetooth®

Bluetooth は、*Bluetooth* SIG の商標登録であり、ヤマハはライセンスに基づき使用しています。

DOLBY DIGITAL

ドルビーラボラトリーズからの実施権により製造されています。
Dolby、ドルビー、PRO LOGIC およびダブル D 記号 は、ドルビーラボラトリーズの商標です。

dts Digital Surround

米国特許 5,956,674、5,974,380、6,487,535 およびその他の国における特許（出願中含む）に基づき製造されています。DTS および記号は DTS 社の登録商標です。また、DTS Digital Surround および DTS ロゴは DTS 社の商標です。製品にはソフトウェアを含みます。
著作権 DTS 社。不許複製。

AAC ロゴマーク は、ドルビーラボラトリーズの商標です。

「ブルーレイ ™」および「ブルーレイディスク ™」は、ブルーレイディスクアソシエーションの商標です。

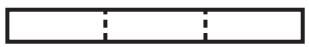
Bluetooth について

- *Bluetooth* とは、無許可で使用可能な 2.4 GHz 帯の電波を利用して、対応する機器と無線で通信を行うことができる技術です。

本機の無線方式について



「2.4」.....2.4 GHz 帯を使用する無線設備
「FH」.....変調方式は周波数ホッピング（FH-SS 方式）
「1」.....想定干渉距離が 10 m 以内



.....全帯域を使用し、かつ移動体識別装置の帯域を回避不可

Bluetooth 通信の取り扱いについて

- *Bluetooth* 対応機器が使用する 2.4 GHz 帯は、さまざまな機器が共有する周波数帯です。*Bluetooth* 対応機器は同じ周波数帯を使用する機器からの影響を最小限に抑えるための技術を採用していますが、他の機器の影響によって通信速度や通信距離が低下することや、通信が切断されることがあります。
- 通信機器間の距離や障害物、電波状況、機器の種類により、通信速度や通信距離は異なります。
- 本書はすべての *Bluetooth* 機能対応機器とのワイヤレス接続を保証するものではありません。

無線に関するご注意

この製品の使用周波数帯では、電子レンジなどの産業・科学・医療用機器のほか、工場の製造ライン等で使用されている移動体識別用の構内無線局（免許を要する無線局）および特定小電力無線局（免許を要しない無線局）並びにアマチュア無線局（免許を要する無線局）が運用されています。

1 この機器を使用する前に、近くで移動体識別用の構内無線局、および特定小電力無線局並びにアマチュア無線局が運用されていないことを確認してください。
2 万一、この機器から移動体識別用の構内無線局に対して有害な電波干渉の事例が発生した場合には、速やかに使用場所を変えるか、または機器の運用を停止（電波の発射を停止）してください。

本製品は、電波法に基づく技術基準適合証明、および電気通信事業法に基づく技術基準適合認定を受けた通信機器を内蔵しております。

音を楽しむエチケット

- 楽しい音楽も時と場所によっては大変気になるものです。隣近所への配慮を十分にしましょう。静かな夜間には小さな音でもよく通り、特に低音は床や壁などを伝わりやすく、思わぬところに迷惑をかけてしまいます。
- 適当な音量を心がけ、窓を閉めるなどして使用しましょう。
- 音楽はみんなで楽しむもの、お互いに心を配り快適な生活環境を守りましょう。

安全上のご注意

ご使用の前に、必ずこの「安全上のご注意」をよくお読みください。

ここに示した注意事項は、製品を安全に正しくご使用いただき、お客様や他の方々への危害や財産への損害を未然に防止するためのものです。必ずお守りください。
お読みになったあとは、いつでも見られるところに大切に保管してください。

■ 記号表示について

この製品や取扱説明書に表示されている記号には、次のような意味があります。



「ご注意ください」という注意喚起を示します。

「～しないでください」という「禁止」を示します。

「必ず実行してください」という強制を示します。

■「警告」と「注意」について

以下、誤った取り扱いをすると生じることが想定される内容を、危害や損害の大きさと切迫の程度を明示するために、「警告」と「注意」に区分して掲載しています。

⚠ 警告 この表示の欄は、「死亡する可能性または重傷を負う可能性が想定される」内容です。

⚠ 注意 この表示の欄は、「傷害を負う可能性または物的損害が発生する可能性が想定される」内容です。

⚠ 警告

電源 / 電源コード

必ず実行

電源プラグは、見える位置で、手が届く範囲のコンセントに接続する。
万一の場合、電源プラグを容易に引き抜くためです。

プラグを抜く

下記の場合には、すぐに電源を切り、電源プラグをコンセントから抜く。
- **異常なにおいや音がする。**
- **煙が出る。**
- **内部に水や異物が混入した。**
- **異常に高温になる。**

そのまま使用すると、火災や感電の原因になります。

禁止

電源コードを傷つけない。
- **重いものを上に載せない。**
- **ステープルで止めない。**
- **加工をしない。**
- **熱器具には近づけない。**
- **無理な力を加えない。**

芯線がむき出しのまま使用すると、火災や感電の原因になります。

必ず実行

必ず AC100V（50/60Hz）の電源電圧で使用する。
それ以外の電源電圧で使用すると、火災や感電の原因になります。

電池

禁止

付属の電池を充電しない。
電池の破裂や液もれにより火災やけがの原因になります。

禁止

電池からもれ出た液には直接触れない。
液が目や口に入ったり、皮膚についたりした場合はすぐに水で洗い流し、医師に相談してください。

禁止

電池を加熱・分解したり、直射日光にさらしたり、火や水の中へ入れない。
破裂や液もれにより、火災やけがの原因になります。

分解禁止

分解禁止

分解・改造は厳禁。
キャビネットは絶対に開けない。
火災や感電の原因になります。
修理・調整は販売店にご依頼ください。

設置

水ぬれ禁止

本機を下記の場所には設置しない。
- **浴室・台所・海岸・水辺**
- **加湿器を過度にきかせた部屋**
- **雨や雪、水がかかるところ**

水の混入により、火災や感電の原因になります。

禁止

放熱のため本機を設置する際には：
- **布やテーブルクロスをかけない。**
- **じゅうたん・カーペットの上には設置しない。**
- **仰向けや横倒しには設置しない。**
- **通気性の悪い狭いところへは押し込まない。**

（サウンドバーの周囲に左右 10cm、上 10cm、背面 10cm 以上のスペースを確保する。）
本機の内部に熱がこもり、火災の原因になります。

禁止

医療機関の屋内など、医療機器の近くで使用しない。
電波が医療用電気機器に影響を与えるおそれがあります。



心臓ペースメーカーの装着部位から 22cm 以上離して使用する。

本機が発する電波により、ペースメーカーの動作に影響を与えるおそれがあります。



十分な耐荷重強度のある、水平で安定した場所に設置する。

傾斜面や、水平でないところ、カーペット、畳などの安定しない面や変形する面などに設置しないでください。

使用上のご注意



放熱用の通風孔、パネルのすき間から金属や紙片など異物を入れない。

火災や感電の原因になります。



本機を落としたり、本機が破損した場合には、必ず販売店に点検や修理を依頼する。

そのまま使用すると、火災や感電の原因になります。



雷が鳴りはじめたら、電源プラグには触れない。

感電の原因になります。



本機の上には、花瓶・植木鉢・コップ・化粧品・薬品・ロウソクなどを置かない。

水や異物が中に入ると、火災や感電の原因になります。接触面が経年変化を起こし、本機の外装を損傷する原因になります。

お手入れ



電源プラグのゴミやほこりは、定期的にとり除く。

ほこりがたまったまま使用を続けると、プラグがショートして火災や感電の原因になります。

⚠ 注意

電源 / 電源コード



長期間使用しないときは、必ず電源プラグをコンセントから抜く。

火災や感電の原因になります。



ぬれた手で電源プラグを抜き差ししない。

感電の原因になります。



電源プラグを抜くときは、電源コードをひっぱらない。

コードが傷つき、火災や感電の原因になります。



電源プラグは、コンセントに根元まで、確実に差し込む。

差し込みが不充分のまま使用すると感電したり、プラグにほこりが堆積して発熱や火災の原因になります。



電源プラグを差し込んだとき、ゆるみがあるコンセントは使用しない。

感電や発熱、および火災の原因になります。



本機を主電源から完全に切り離すには、電源プラグをコンセントから抜く。

本体の⏻電源ボタンでシステムオフ状態にしても、本機はまだ通電状態にあります。

電池



電池は極性表示（プラス＋とマイナスー）に従って、正しく入れる。

間違えると破裂や液もれにより、火災やけがの原因になります。



電池は幼児の手の届かない所に保管する。

口に入れたりすると危険です。



指定以外の電池は使用しない。また、種類の異なる電池や、新しい電池と古い電池を混ぜて使用しない。

破裂や液もれにより、火災やけがの原因になります。



電池と金属片をいっしょにポケットやバッグなどに入れて携帯、保管しない。

電池がショートし、破裂や液もれにより、火災やけがの原因になります。



長時間使用しない場合は、電池を電池ケースから抜いておく。

電池が消耗し、電池から液漏れが発生し、本機を損傷するおそれがあります。



使い切った電池は、すぐに電池ケースから取り外し、自治体の条例、または取り決めに従って廃棄する。

破裂や液もれにより、火災やけがの原因になります。

設置



不安定な場所や振動する場所には設置しない。

本機が落下や転倒して、けがの原因になります。



あおむけや横倒しには設置しない。

故障やけがの原因となることがあります。



直射日光の当たる場所や、温度が異常に高くなる場所（暖房機のそばや車内など）には設置しない。

本機の外装が変形したり内部回路に悪影響が生じて、火災の原因になります。



ほこりや湿気の多い場所に設置しない。

ほこりの堆積によりショートして、火災や感電の原因になります。



他の電気製品とはできるだけ離して設置する。

本機はデジタル信号を扱います。他の電気製品に障害を与えるおそれがあります。また、本機は非防磁のスピーカーを使用しています。他の機器や磁気記憶装置に障害を与えるおそれがあります。



ブラウン管を使用したディスプレイから離して設置する。

画面に色むらが起きることがあります。



機器を接続する場合は、接続する機器の電源を切る。

突然大きな音が出たり、感電したりすることがあります。



工事はお買上げ店、または専門の工事業者に依頼する。

工事は技術と経験が必要です。不充分な取り付けは本機が落下して、けがをする原因になります。お客様による工事は一切行わないでください。

移動



移動をするときには電源スイッチを切り、すべての接続を外す。

接続機器が落下や転倒して、けがの原因になります。コードが傷つき、火災や感電の原因になります。

使用上のご注意



音が歪んだ状態で長時間使用しない。

スピーカーが発熱し、火災の原因になります。



環境温度が急激に変化する場所では使用しない。

本機に結露が発生することがあります。正常に動作しないときには、電源を入れない状態でしばらく放置してください。



ポート（開口部）には手を入れない。

感電やけがの原因となることがあります。



外部機器を接続する場合は、各機器の取扱説明書をよく読み、説明に従って接続する。



業務用機器とは接続しない。

デジタルオーディオインターフェース規格は、民生用と業務用では異なります。本機は民生用のデジタルオーディオインターフェースに接続する目的で設計されています。業務用のデジタルオーディオインターフェース機器との接続は、本機の故障の原因となるばかりでなく、スピーカーを傷める原因になります。

リモコン



水やお茶などの液体をこぼさない。

電池がショートし、破裂や液もれにより、火災やけがの原因になります。感電の原因になります。



落としたり、強い衝撃を与えたりしない。

故障の原因になります。



下記のような場所に置かない。

- **風呂場の近くなど、湿度が高いところ**
- **暖房器具やストーブの近くなど、温度が高いところ。**
- **極端に寒いところ**
- **ほこりの多いところ**

火災や故障の原因になります。

お手入れ



お手入れをするときには、必ず電源プラグを抜く。

感電の原因になります。



薬物厳禁

ベンジン・シンナー・合成洗剤等で外装をふかない。また接点復活剤を使用しない。

外装が傷んだり、部品が溶解することがあります。

お問い合わせ窓口

ヤマハAV製品の機能や取り扱いに関するお問い合わせ

■ ヤマハお客様コミュニケーションセンター オーディオ・ビジュアル機器ご相談窓口

ナビダイヤル（全国共通） 0570-011-808

全国どこからでも市内通話料金でご利用いただけます。

上記の番号でつながらない場合は、以下の番号におかけください。
TEL (053) 460-3409

〒430-8650 静岡県浜松市中区中沢町10-1

受付:月～金曜日 10:00～18:00　土曜日 10:00～17:00
（日曜、祝日およびセンター指定の休日を除く）

■ ホームシアター・オーディオサポートメニュー

お客様からお寄せいただくよくあるお問い合わせをまとめました。ぜひご覧ください。

http://jp.yamaha.com/support/audio-visual/

ヤマハAV製品の修理、サービスパーツに関するお問い合わせ

■ ヤマハ修理ご相談センター

ナビダイヤル（全国共通） 0570-012-808

全国どこからでも市内通話料金でご利用いただけます。

上記の番号でつながらない場合は、以下の番号におかけください。
TEL (053) 460-4830

受付:月～金曜日 9:00～18:00　土曜日 9:00～17:00
（日曜、祝日およびセンター指定の休日を除く）

FAXでのお問い合わせ

北海道、東北、関東、甲信越、東海地域にお住まいのお客様
(03) 5762-2125

九州、沖縄、中国、四国、近畿、北陸地域にお住まいのお客様
(06) 6465-0367

修理品お持ち込み窓口
受付:月～金曜日 9:00～17:45
（土曜、日曜、祝日およびセンター指定の休日を除く）

東日本サービスセンター
〒143-0006 東京都大田区平和島2丁目1-1
京浜トラックターミナル内14号棟A-5F
FAX (03) 5762-2125

西日本サービスセンター
〒554-0024 大阪市此花区島屋6-2-82
ユニバーサル・シティ和幸ビル9F
FAX (06) 6465-0374

*名称、住所、電話番号、URLなどは変更になる場合があります。

保証とアフターサービス

サービスのご依頼、お問い合わせは、お買い上げ店、またはヤマハ修理ご相談センターにご連絡ください。

● 保証期間
製品に添付されている保証書をご覧ください。

● 保証期間中の修理
保証書の記載内容に基づいて修理させていただきます。詳しくは保証書をご覧ください。

● 保証期間が過ぎているとき
修理によって製品の機能が維持できる場合にはご要望により有料にて修理いたします。

● 修理料金の仕組み

技術料	故障した製品を正常に修復するための料金です。技術者の人件費、技術教育費、測定機器等設備費、一般管理費等が含まれています。
部品代	修理に使用した部品代金です。その他修理に付帯する部材等を含む場合もあります。
出張料	製品のある場所へ技術者を派遣する場合の費用です。別途、駐車料金をいただく場合があります。

● 補修用性能部品の最低保有期間
補修用性能部品の最低保有期間は、製造打ち切り後8年です。
補修用性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。

● 製品の状態は詳しく
サービスをご依頼されるときは製品の状態をできるだけ詳しくお知らせください。また製品の品番、製造番号などもあわせてお知らせください。
※ 品番、製造番号は製品の背面もしくは底面に表示してあります。

● スピーカーの修理
スピーカーの修理可能範囲はスピーカーユニットなど振動系と電気部品です。尚、修理はスピーカーユニット交換となりますので、エージングの差による音色の違いが出る場合があります。

● 摩耗部品の交換について
本機には使用年月とともに性能が劣化する摩耗部品(下記参照)が使用されています。摩耗部品の劣化の進行度合は使用環境や使用時間等によって大きく異なります。
本機を未永く安定してご愛用いただくためには、定期的に摩耗部品を交換されることをおすすめします。
摩耗部品の交換は必ずお買い上げ店、またはヤマハ修理ご相談センターへご相談ください。

摩耗部品の一例
ボリュームコントロール、スイッチ・リレー類、接続端子、ランプ、ベルト、ピンチローラー、磁気ヘッド、光ヘッド、モーター類など

※ このページは、安全にご使用いただくためにAV製品全般について記載しております。

永年ご使用の製品の点検を！

愛情点検

こんな症状はありませんか？
- 電源コード・プラグが異常に熱い。
- コゲくさい臭いがする。
- 電源コードに深いキズか変形がある。
- 製品に触れるとピリピリと電気を感じる。
- 電源を入れても正常に作動しない。
- その他の異常・故障がある。

すぐに使用を中止してください。

事故防止のため電源プラグをコンセントから抜き、必ず販売店に点検をご依頼ください。
なお、点検・修理に要する費用は販売店にご相談ください。

ヤマハ株式会社
〒430-8650　浜松市中区中沢町10-1



© 2013 Yamaha Corporation

ヤマハ株式会社
Printed in Indonesia ZH15310